

在来作物と伝統農法の再評価と 活用に関する研究

植物機能開発学コース

江頭 宏昌 教授 EGASHIRA, Hiroaki



キーワード：伝統知，食文化，特性評価，遺伝的類縁関係

専門分野：植物遺伝資源学分野

連絡先Email：egashira@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

研究内容

『地域らしさを在来作物で表現する』

山形県には180種類近くの在来作物が継承されています。日本全国には1000種類以上の在来作物があると推察されます。しかし生産効率の悪さなどの理由で、後継者ができず消えゆくとしている貴重な作物も数多くあります。

交流人口を拡大して行かなければならない人口減少時代に、地域の個性を豊かに、シンボリックにPRしてくれる在来作物の活用は欠かせません。活用は保存と継承にもつながります。

私は在来作物の特徴を360度の視野で把握するため、歴史や文化とともに、農業特性や食品特性、由来を推測するための遺伝的類縁関係などを調べています。



温海カブ（鶴岡市）



鵜戸川原キュウリ（酒田市）



勤次郎キュウリ（真室川町）



畑ナス（新庄市）



悪戸芋（山形市）



山形赤根ホウレンソウ
（山形市）



宇津沢カボチャ（飯豊町）



雪菜（米沢市）



最上赤ニンニク（最上町、
真室川町、戸沢村）